

平成25年度部局運営方針（地域づくり推進部）

1 部局の方針

(1) 基本方針

市民の地域活動を多面的に支援し、協働によるまちづくりを推進する。行政と地縁組織との役割を明確にする。誰もが住みやすい災害にも強い愛着のもてるまちづくりを目指す。

(2) 現状、課題(特に重要な課題を明確にしてください)

- 1 協働によるまちづくり
多くの市民活動団体は財政基盤が脆弱で、活動の維持や継続が困難
団体が活動を継続していけるような支援制度が求められている。
- 2 地域コミュニティの衰退
地縁組織の高齢化と市民の地域帰属意識の希薄化（地縁組織と行政の役割が不明確）
- 3 社会状況の変化や災害に対応できる広報活動
市民生活・市民ニーズが多様化するなか、行政への理解を深めるための情報発信は難しい状況。特に災害時等、混乱したなかで広域、迅速に情報発信することは特に困難である。
- 4 少子高齢化など社会状況の変化に対応できる個性や能力を生かした社会参画
家庭・職場・地域の意識や慣行には、依然として男女の役割分担意識がうかがえ、能力や個性が十分に活かされているとはいえない。
- 5 安全で使いやすい施設整備と管理運営
文化会館（昭和47年開館）は老朽化が進行。アミュゼ柏は市直営の運営管理を実施

(3) 目指す方向、重点目標

- 1 市民活動の立ち上げ期に加え、活動安定期及び発展期の団体のニーズに応える。
⇒市民公益活動の支援拡充、「民が民が支える社会」「寄付文化」の醸成を図る。
- 2 地縁組織との連携と地域づくり推進事業の推進
⇒地縁組織と行政の効率的な協働、地域の課題解決型事業への積極的な支援
- 3 対象のニーズにあった「正しく伝わる」広報活動の展開
⇒市政情報の提供についての満足度と「市政」への関心度を上げる。
- 4 積極的な社会参画の推進
⇒性別等に関係なく誰もが暮らしやすいまちづくり
- 5 市民活動を支える施設の整備
⇒市民ニーズに合わせた安全で効率的な施設整備と管理運営

(4) 施策、目標達成の取り組み(施策の優先順に記入してください)

- 1 (仮称)市民公益活動支援補助制度の創設
市民・事業所からの寄付金を財源に、市民活動団体の財政面を支援する。
- 2 コミュニティ活動の支援と行政との役割の明確化
地縁組織と行政の関係と地縁活動補助金の見直し、及び地域づくりコーディネーターによる地域活性化支援
- 3 広報活動の充実
広報媒体の改善、災害時の体制強化、市内外へのPR活動
- 4 女性や若い世代の社会参画のための取り組み
市の事業や、市政に参画しやすいように、保育の提供を行うなどの環境整備を行う。
- 5 市民活動を支える施設の整備と効率的な施設管理運営
文化会館の小ホールの塗装防水設計・設備改修や、アミュゼ柏に指定管理者制度を導入し、安全で効果的な施設運営、管理を目指す。

(5) 平成25年度の取組み

	施策	取組み, 事業, 目標等
1	<p>・(新) 市民公益活動支援補助制度の創設</p> <p>(目標値) 新制度に50団体の登録を見込む。</p>	<p>・市民・事業所からの寄付金を財源とする補助制度を新たに設け、団体登録、審査を経て、補助金を交付する。なお、従来の市民公益活動補助金については活動育成期の支援制度として見直し、継続する。補助金の審査、内示は年度内に実施</p> <p>・助成制度の趣旨を広く市民、事業者にPRする。</p> <p>・公共及び民間施設への自動販売機(売り上げの一部は補助金の財源)の設置のほか、安定的な財源を確保するために寄付者へのインセンティブ付与等の方策を講じる。</p>
2	<p>・地縁組織との連携</p> <p>・地域コミュニティの活性化</p> <p>(目標値) 公益活動補助金20団体申請受付</p>	<p>・庁内連携会議により地縁団体に対する横の連携を構築</p> <p>・地縁組織と行政との連携のあり方について、町会長等会議やふるさと協議会定例会などでの意見交換会の開催</p> <p>・旧柏市民公益活動補助金:「すずめコース」を改定し地縁組織の支援強化</p> <p>・地域づくりコーディネーターを増員し、市民大学・地活マイスタークラスの学生等と併せ、各ふるさと協議会における地域づくり推進事業の支援のほか、地域の多様な主体と連携した地域活性化の支援を行う。</p>
3	<p>・広報活動の充実</p> <p>(目標値)</p> <p>① 市政情報提供の満足度49%(H21年)→55%(H27年度末)</p> <p>② 人口の回復(H24.9.1現)404,350人→(H26.4.1)405,000人</p>	<p>・広報媒体の改善 広報かしわのリニューアル(広告掲載)、ホームページの改修</p> <p>・災害時の体制強化 停電時用のノートパソコンの配備(HP用CMSモバイルPC)、庁内へのバックアップ用サーバーの設置(非常用サーバー設置)</p> <p>・市内外へのPR活動 CMコンテスト動画の活用、市民大学の成果としてのフェイスブックページの開設</p>
4	<p>・若い世代への意識啓発と、附属機関の女性委員の登用の促進</p> <p>(目標値:H25年度) 附属機関の女性率33%</p>	<p>・インターネットセンター等からの情報発信などを行い、積極的な意識の啓発に努める。審議会等の会議開催時に保育の提供を行い、女性の比率だけでなく、子育て世代の女性が積極的に、政策・方針決定過程に参画できるような環境を整える。関係部署にも、女性委員の積極的な登用を働きかけることで、市側も幅広い人材の発掘につながり、より女性の登用促進が進むことを目指す。</p>
5	<p>・アミュゼ柏管理運営事業</p> <p>・文化会館の塗装防水工事等の設計委託</p> <p>(目標値) H25年度、アミュゼ柏稼働率 80%</p>	<p>・指定管理者制度導入に伴う管理・運営の円滑な移行</p> <p>・小ホール建物の舞台吊物装置・幕類の定期修繕を行い、設備老朽化への対応、安全な舞台運営を確保する。併せて、外壁塗装、防水シート、照明・音響設備の改修工事設計委託を行う。</p>

(6) 経費縮減、財源確保の取組み

1 平成25年度の取組み

- ①市民・事業者からの寄付を財源とする（仮称）市民公益活動支援補助制度を設置
- ②柏まつり事業補助金の見直し（ふるさと運動補助金）
- ③広報かしわのリニューアル（経費縮減・財源確保）
- ④近隣センター使用料の見直し

中期的な取組み

- ①上記基金への寄付促進を図り、既存の市民公益活動促進事業の財源に充てる。
- ②防犯灯のLED化による電気料金の削減
- ③ホームページ広告枠の拡大

2 予算要求

(1) 要求額（一般会計）

単位：千円，%

	歳入		歳出	
	金額	増減率	金額	増減率
平成24年度当初予算	162,944	-	1,173,177	-
平成25年度要求	98,044	△39.8	1,125,433	△4.1

※歳入、歳出の差は市税等一般財源を充当します。

(2) 前年度との比較（相違、工夫、主な増減理由等 1の(6)と重複可）

1 歳入

- ①新設する（仮称）市民公益活動支援補助制度の財源には、ふるさと寄付制度を活用しながら、市民・事業者から広く寄付を募る。また社会貢献型自動販売機の設置（市民活動センター）により得た収入を財源として繰り入れる。（見込330千円）
- ②除染費用の減に伴う災害復旧費国庫補助金の減
（放射線量低減対策特別緊急事業費補助 18,000千円⇒4,133千円 13,867千円減）
- ③広報かしわの広告収入

2 歳出

- ①地縁活動補助金制度の新設による増（2,278千円）
- ②広報かしわの規格やデザインを見直し、紙原価高騰の影響等による価格上昇を抑える。
（リニューアルに伴い、前年度同条件比較6,559千円の削減）